

## (11) 鹿児島市

### 環境の保全と持続可能なまちづくり

鹿児島市長 森 博幸

#### 鹿児島市の紹介

鹿児島市は、日本の南に位置し、人口 60 万人を擁する交流拠点都市として古くから栄えてきており、市街地の眼前に、今なお爆発を続ける活火山桜島と波静かな錦江湾、後背地に深緑の森林やそこから流れる幾つもの清流、豊富な温泉など、都市と自然が共生する豊かな環境の中にある。

2009 年の平均気温は 19℃と温暖な気候であるが、この 100 年間の平均気温は、2℃以上上昇している。この間の日本全体の上昇が 1℃であるので、2倍以上の上昇になる。このうちの半分は地球温暖化の影響で、残りの半分はヒートアイランド現象の影響と言われている。

最近では、錦江湾で、珊瑚礁の白化現象がみられたり、沖縄からインド洋にかけて生息するグルクンという熱帯性の魚が確認されたりしている。

また、市内では、フィリピンや台湾で生息するクロマダラソテツシジミという蝶や熱帯地方に生息するハイイロゴケグモなどの昆虫の生息が確認されるなど、地球温暖化による影響ではないかと思われる現象が出始めている。

#### 環境にやさしい持続可能なまちづくり

このような中、本市は、「環境」を最も重要な施策として位置付け、まちづくりのあらゆる分野において可能な限り環境の視点を取り込んだ取組みを進めている。

そして、自然の恵みを将来にわたって享受できる「自然共生社会」、資源循環により環境への付加をできる限り少なくする「循環型社会」、温室効果ガスを大幅に削減しながらも生活の豊かさを実感できる「低炭素社会」、この 3つの要素を兼ね備えた「環境にやさしい持続可能なまちづくり」を進め、地球環境時代をリードする都市を目指している。

このようなまちづくりを、市民、事業者と協働して取り組んでいくため、2008 年 10 月には、市民みんなで力を合わせて、環境にやさしい持続可能なまち“かごしま”を築いていくという「かごしま環境都市宣言」を行っている。

#### 自然共生社会

本市は、桜島、錦江湾をはじめ郊外に広がる緑など、豊かな自然に恵まれている。自然は、人々の豊かな心を育む場として重要な役割を担っており、自然のもつ多様な機能を活かしながら、その保全を図り、よりよい状態で次の世代へ引き継いでいかなければならない。

本市の砂浜に上陸・産卵する貴重なアカウミガメの保護活動や中心市街地を流れる甲突川の再生など、自然環境の保全を行うとともに、これらの自然とふれあう場や機会を増やすことで、市民の自然保護意識の高揚を図っている。

来月 11 日から、名古屋市において、「生物多様性条約第 10 回締約国会議」いわゆる C O P 10 が開催される。地球上の生き物の「いのち」と「暮らし」を支える生物多様性の確保は大変重要な課題である。これを機に、本市においても、鹿児島市版の生物多様性地域戦略を策定し、本市の豊かな生物多様性を保全し、その恵沢を将来にわたって享受できる、自然と共生する社会を実現してまいりたいと考えている。

## 循環型社会

近年、市民生活や事業活動において、大量生産、大量消費、大量廃棄を続けてきた結果、廃棄物の量が増加してきた。

しかし、今日では、ごみのリデュース（発生抑制）、リユース（再使用）、リサイクル（再生利用）のいわゆる3R（スリーアール）に取り組み、環境への負荷を少なくし、資源やエネルギーを有効利用する循環型の廃棄物処理をすすめているところである。

また、本市では、ごみを15分別で収集したことにより、もやせるごみは減少し、缶・びん、古紙類などの資源物は増加してきている。ごみの8割については、2つの清掃工場で焼却を行っており、それぞれの施設で、ごみ焼却により発生する熱エネルギーで発電を行うなど、可能な限り余熱の有効利用を行っている。

今後は、ごみを焼却するだけでなく、貴重な資源として捉え、ごみから再生可能エネルギーの一つであるバイオガスを生産して、温室効果ガスの排出削減を図るなど、さらに有効な活用を検討してまいりたいと考えている。

## 低炭素社会

地球温暖化対策が喫緊の課題となっている今日、本市では、市域内の温室効果ガス排出量の削減目標や、その目標達成に向けた施策等を掲げた「鹿児島市地球温暖化対策地域推進計画」を、2007年に策定した。

この中で、2011年における温室効果ガス排出量を1990年比で8%削減することを目標とし、低炭素社会の実現に向け、市民・事業者と一体となって、積極的な取り組みを進めている。

その具体的なものとして、まず、太陽光発電の導入促進について紹介する。本市は、2004年から、住宅の太陽光発電の設置に対して、市民への補助を行ってきており、2009年までの市内全体の設置件数は3,700件と、国内の類似都市ではトップレベルの普及である。

また、市の公共施設についても、太陽光発電の導入を行っており、さらなる温室効果ガス排出量の削減を図るため、2020年までに、3メガワットの太陽光発電を設置する「メガソーラー発電所計画」を策定し、計画的に導入していく予定である。

## その他の温暖化対策

電動アシスト自転車とは、電動機（モーター）により人力を補助する自転車のことである。本市は、地形的に平野部が少なく、丘陵地を造成した高台に住宅地が多いため、通勤や買い物などを自家用車に頼っているのが現状である。この自家用車から自転車に乗り換えてもらい、自動車からの温室効果ガスの排出量を削減するため、坂道も楽に登れる電動アシスト自転車の購入補助を、昨年からは開始し、大変好評をいただいている。また、電気自動車の普及を図るために、公用車に10台導入している。

## 市電軌道敷緑化

本市の路面電車は、1914年に開業し、年間の利用者は、2008年で1087万人と、市民の身近な交通手段として、長年親しまれてきており、CO<sub>2</sub>の削減に大きな役割を果たしている。この路面電車の軌道敷において、2006年から、ヒートアイランド現象の緩和と都市景観の向上を図る目的で、国内で初めて本格的な芝生化を行ってきている。現在、道路延長にして4.8kmを芝生化しており、市街地のメインストリートに「緑のじゅうたん」が色鮮やかに映えている。

また、芝生を植えつける緑化基盤には、鹿児島に無尽蔵にある火山噴出物のシラスをセメントで固めたものを使用している。軌道敷の表面温度は、18℃低くなり、特に中央分離帯では24℃も

低くなり、大きな低減効果が確認できた。

また、沿線の騒音も4デシベル小さくなり、乗り心地も良くなっている。街がきれいになったとか、魅力がアップしたといったように、市民をはじめ観光客の方々にも大変好評をいただいている。そのほかのヒートアイランド現象を緩和する緑化として、毎年、市の施設の屋上や学校の校庭の芝生化を進めるとともに、民間のビルの屋上や壁面の緑化に対する補助を行っている。

## 市民との協働

本市では、市民みんなで街をきれいにしようということで、定期的に、市民団体や企業による周辺の清掃活動が行われており、また、毎年8月の第一日曜日には、市民一斉清掃「クリーンシティかごしま」の日として、市民総参加による自主的な美化・清掃活動を実施している。今年も8万人による一斉清掃を行った。このように、環境の保全と持続可能なまちづくりを進めていくためには、市民と市が連携したパートナーシップを築き、地域や事業者の主体的な取組につなげていくことが必要である。

## かごしま環境未来館

市民、事業者と協働して環境活動に取り組んでいくため、その中心となる施設として「かごしま環境未来館」を建設した。

この施設は、環境学習や環境情報の発信、環境保全活動の拠点施設として、また、環境に与える影響の少ない「エコモデル施設」として、2008年10月にオープンした。

芝生や樹木等により全面的に緑化し、自然の風や光をできるだけ取り入れるとともに、太陽光発電システムの設置や地下水及び地熱の空調利用など、自然エネルギーを有効に活用するなど、ヒートアイランド現象の緩和や温室効果ガスの排出削減を図った施設となっている。

屋上緑化について、緑化前は68℃あった屋上面が、緑化後は38℃となり、30℃も低減効果があることや、類似の同規模の施設との比較において、CO<sub>2</sub>の排出量が60%削減されている。施設内では、海岸の漂着ごみや世界の環境問題の写真のほか、ごみ・食糧・水などいろいろな環境問題を楽しく学ぶための展示や、映像を見る部屋を設けており、環境について楽しく学べるようになっている。

この施設では、地域の自然から地球環境に関することまで、幅広く参加体験型の講座を実施している。また、市民への情報提供や活動支援、地域で環境保全活動に取り組む人材の育成のほか、市民や事業者と協働して、企画展や講演会など、様々なイベントに取り組んでいる。

この「かごしま環境未来館」が多くの方々に愛され、環境を守り次の世代に引継いでいくという機運が、鹿児島から内外に大きく広がることを期待しているところである。

## 今後に向けて

今後の本市の環境施策の基本方針となる「第二次環境基本計画」、そして、短期、中期、長期の地球温暖化対策を盛り込んだ「地球温暖化対策アクションプラン」を、現在、策定している。これらに基づき、さらに積極的な施策を展開し、将来にわたって持続可能な社会を築き、地球環境時代をリードする都市を目指していく。

## Building a Sustainable and Environmentally-conservative City



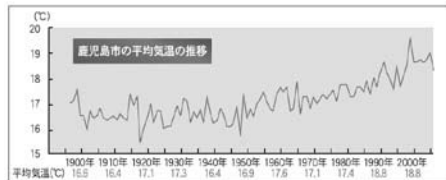
Mayor of Kagoshima, Hiroyuki Mori

## Introduction to Kagoshima City

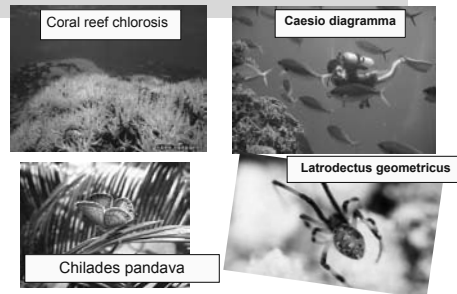


## Kagoshima City's Average Temperature

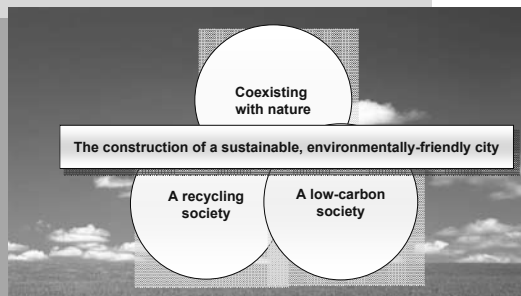
The average temperature has risen in the past 100 years  
 Japan – approx. 1°C  
 Kagoshima City – approx. 2.2°C



## The Greenhouse Effect in Kagoshima



## Building a sustainable environmentally-friendly city



## Coexisting with nature



## A recycling society ①

**3R**  
**RRR**  
 Reduce Reuse Recycle

リデュース  
 Reduce (発生抑制)  
 リユース  
 Reuse (再使用)  
 リサイクル  
 Recycle (再生利用)

## A recycling society ②

North Waste Disposal Centre



Biogas Plant



## A low-carbon society

Kagoshima Global Warming Counter-measures  
Area Promotion Plan

### City Emissions Reduction Goal

Reduce emissions by 8% of 1990 levels by 2011

## Introduction of solar power

Introduction and promotion of solar power



- Home solar power system support program
- Mega solar power plant plans (2010~2020)



## Other measures to counter global warming

Promotion of Electric Assistant Bicycles



Introduction and promotion of electric vehicles

- Introduce 10 electric cars for official use



## Turf-laying on city tram tracks



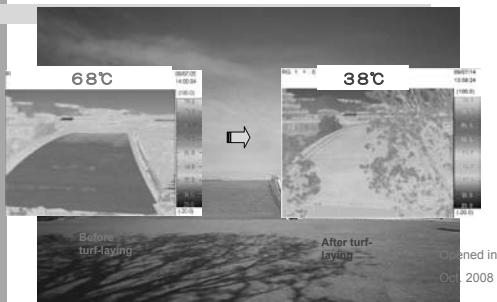
## Other turf-laying projects



## Cooperation with citizens



## Kagoshima Museum of the Environment ①



## Kagoshima Museum of the Environment ②



## Future plans

- Kagoshima City Environmental Basic Plan, 2<sup>nd</sup> phase  
Fundamental environmental policies over the 2012~2021 period
- Kagoshima City Global Warming Counter-measures Action Plan  
Short-term, mid-term, long-term counter-measures against global warming for 2012 onwards

## Building a sustainable, environmentally-friendly city



Thank you for your audience

## (12) 宮崎市

### 新しい都市づくり～宮崎市の取組み～ 市民が主役の市民のためのまちづくり

宮崎市長 戸敷 正

#### 1. 宮崎市の概要

宮崎市は、九州の南東部に位置し、太平洋に面している。温暖な気候と豊かな自然に恵まれた都市である。本年3月に隣接する清武町と合併して、人口は約40万人、面積は約644平方キロメートルとなった。

本市のスローガンは、「活力と緑あふれる太陽都市・・・みやざき・・・」であり、産業振興（特に、観光及び農業）をはじめ、健康・福祉・教育・文化・環境・景観などの分野において、重点的に施策を進め、宮崎県の県都として発展している。

宮崎市では、四季折々の色鮮やかな草花等の植物をいたるところで見ることができる。美しいまちなみが訪れる人々の目を楽しませてくれる。

宮崎市では、長年に渡って都市全体を公園のようにするための取り組みを進めてきたのである。

このような基礎に立って、観光振興の施策を進めてきた。その柱が「大会・会議の誘致」と「スポーツキャンプの誘致」である。

#### 2. 国際観光コンベンション・リゾート都市づくり

本市には、2008年の1年間で、国内外から約616万人の観光客が訪れている。その内、外国人観光客が約67,500人となっている。1965年の観光客数は、約230万人であった。1973年には、約613万人になった。現在とほぼ同じである。これは、都市全体を公園のようにする取り組みの成果であった。しかし、良い夢は長く続かなかった。5年後には、約100万人減った。

その要因は2つある。一つは、日本からの海外旅行が自由化されたこと。二つ目は、日本の各都市が観光都市づくりを進めたことである。宮崎市は、その後の戦略を組み立てた。

一つは、国際的なコンベンション・リゾート都市づくりと大会・会議の誘致である。

本市の観光地の中で、最もよく知られているのは「フェニックスリゾート・シーガイア」である。これは、総合保養地域整備法、いわゆるリゾート法という法律に沿って、宮崎県と宮崎市が支援してできた民間のリゾート施設である。2000年の「九州・沖縄サミット宮崎外相会合」の開催場所となった。外相会合が開かれたコンベンションセンターや宿泊施設となったホテルがある。また、日本の伝統様式をとり入れた温泉施設「松泉宮（しょうせんきゅう）」や「ダンロップフェニックストーナメント」の会場となっているゴルフ場などがある。

2008年に市内のコンベンション施設を使用して開催された各種大会や会議は、183件で、延べ参加人員は約20万3千人である。

施設も充実しており、中でも2000年の「九州・沖縄サミット宮崎外相会合」の開催場所となった「ワールドコンベンションセンターサミット」は、最大5,000人収容で9カ国語同時通訳装置のあるホールをはじめ、大中小10個の会議室を備えており、日本最大級の国際会議場である。

このほか、宮崎市内にあるホテル、文化ホール、体育館などが大きなコンベンションから小さなコンベンションまで、幅広く利用されている。

大会・会議の後の観光も充実している。自然が織り成す風光明媚（ふうこうめいび）な場所と

して、「鬼（おに）の洗濯板（せんたくいた）」と呼ばれる波状の岩で囲まれた「青島（あおしま）」や、四季を通じていろいろな花が咲き、南国宮崎を感じさせる「堀切峠（ほりきりとうげ）」などがある。また、宮崎市には青島（あおしま）、白浜（しらはま）、サンビーチーツ葉（ひとつば）という3つの海水浴場があり、今年も7月、8月の2カ月間で、約25万人の海水浴客が訪れた。

近年の観光動向においては、「地元の人との交流やもてなし」が重視されている。そこで、重要な役割を担うのが、市民の「神話・観光ガイドボランティア」であり、「通訳ボランティア」であるので、その育成にも力を入れているところである。

大会・会議の開催を支援する制度も設けている。延べ宿泊者数など一定の条件を満たせば、会場使用料や講師等の謝金、現地見学会の経費等の一部の補助が受けられるようになっている。コンベンション主催者からの相談窓口は、みやざき観光コンベンション協会であり、主催者の希望に応じて、適切に支援している。

### 3. スポーツランドみやざきづくり

本市には、宮崎県立の総合運動公園と宮崎市立の総合運動公園がある。野球、サッカー、テニス、陸上競技などの競技施設が大変充実しているため、各種スポーツの大会やキャンプ等が数多く行われている。

最近では、昨年3月のWBC（ワールド・ベースボール・クラシック）で優勝した、日本代表の強化合宿が、宮崎市内で1週間行われた。期間中は、約24万人のファンが訪れ、宿泊施設も連日満室となった。

また、2002年のサッカーワールドカップでは、ドイツとスウェーデンの2チームが本市でキャンプを行った。複数のチームがキャンプを行ったのは、日韓ワールドカップの中で、宮崎市だけであった。

さらに、オリンピックなどの大きな大会に向けて、野球やソフトボールの日本代表チームがキャンプを行った。毎年11月には、男・女のプロゴルフトーナメントが続けて開催されるため、市では「みやざきゴルフマンス」と位置づけ、盛り上げているところである。ナショナルチームのキャンプや有名選手が参加する大会では、それを見るために、観光客が大勢訪れるのである。そのほか、マリンスポーツも盛んに行われている。特に、サーフィンやボディボードに適した良質の波が発生する海岸があり、これまで国際的な大会が開かれている。このような基礎のもとに、企業や大学などのスポーツキャンプも誘致している。

このような取り組みの結果、年間約600万人の観光客を維持している。これが宮崎市の経済活動に大きく寄与している。

宮崎市では、新たな観光施策を立案し、計画的かつ効果的に推進していくため、「新宮崎市観光振興計画」を策定した。この計画に基づき、「個性的な観光リゾートづくりの推進」や「観光ホスピタリティ（おもてなしの心）の充実」「スポーツランドみやざきの推進」などに取り組み、「市民が誇りを持つことができる観光都市の実現」を目指す。

### 4. きずな社会づくり

宮崎市においては、少子化・高齢化・核家族化が急速に進んでいる。これは、日本の各都市に共通する大きな課題の一つとなっている。その結果、人と人とのつながりが希薄化している。

このような問題は、安心して生活できる安全な都市としてのイメージを損なう。安全・安心な都市としてのイメージは、都市の発展につながる重要な課題である。

このようなことから、本市では、21の地域自治組織を設置した。この制度を導入したことにより、地域住民の声を市政に反映させる仕組みができた。また、身近な地域の課題を住民自らが発見し、地域で解決する枠組みが整備され、地域独自の取り組みが進められるようになってきた。



このように一定の成果を上げているところであるが、私は、安心して生活できる住みよい都市を実現するためには、住民同士のつながりをより深いものにする必要があると考えている。住民が自分の地域のよさを知り、家族のきずな、そして地域のきずなといった人と人との触れ合いやつながりのある「きずな社会」を改めてつくりあげる必要があると思っている。

そのためには、現在の地域自治区におけるまちづくり組織を、より小さな組織の集合体として組み立てることが有効である。そこで、子供を中心にした対面型の活動、つまり小学校区単位の地域組織を作っていきたいと考えている。

宮崎市には、小学校が48校ある。この校区ごとにコミュニティ組織を設けることを考えている。このコミュニティ組織が中心になって、文化や歴史など地域の魅力の再発見やそれぞれの特性を生かした地域づくりが実践され、市民がまちづくりに参画する機会が増えていくものと思っている。

## 5. おわりに

今後とも、私は、市民の地域に対する熱い思いや情熱をまちづくりに反映させ、特色あるまちづくりを進めていきたいと考えている。そして、市民が自分たちの住むまちを自慢でき、誇りに思えるような「市民が主役の市民のためのまちづくり」に積極的に取り組み、訪れる人がより一層魅力を感じるまちにしていきたいと思う。

皆様におかれては、機会があればぜひ一度本市に来ていただき、宮崎を堪能していただければ幸いである。



**新しい都市づくり**  
**New city development strategies**  
 ～宮崎市の取り組み Projects in Miyazaki City～

「市民が主役の市民のためのまちづくり」  
 City development by citizens for citizens

第9回アジア太平洋都市サミット第2分科会  
 The 9<sup>th</sup> Asian-Pacific City Summit; Sub-committee No.2

**宮崎市の取り組み**  
 Projects in Miyazaki City

1. 「国際観光コンベンション・リゾート都市」づくり  
 International Tourism and Convention and Resort City
2. 「スポーツランドみやざき」づくり  
 Sports land Miyazaki
3. 「きずな社会」づくり(地域コミュニティの再生)  
 Revitalization of social ties on local community level

**「活力と緑あふれる太陽都市～みやざき」**  
 The Sunshine City where vitality and greenery is abundant

Miyazaki, Japan  
九州 Kyushu

- ・人口(Population) 約400,000人
- ・面積(Area) 約644km<sup>2</sup>

**宮崎市の景観**  
 Landscape of Miyazaki City

**国際観光コンベンション・リゾート都市づくり(1)**  
 International Tourism and Convention and Resort City

◎ 宮崎市の観光客数 Number of Tourists of Miyazaki City in 2008

- 観光客数 Tourists  
 ⇒ 約616万人 about 6,160,000 people
- 外国人観光客数 Tourists from Overseas  
 ⇒ 約67,500人 about 67,500 people

1965年: 約230万人 about 2,300,000 tourists in 1965  
 ↓  
 1973年: 約613万人 about 6,130,000 tourists in 1973  
 ↓  
 1978年: 約501万人 about 5,010,000 tourists in 1978

★国際的なコンベンション・リゾート都市づくり  
 International Convention and Resort City  
 ★大会・会議の誘致  
 Attracting of conventions and conferences

**国際観光コンベンション・リゾート都市づくり(2)**  
 International Tourism and Convention and Resort City

- シーガイア Seagaia  
 「シェラトン・グランデ・オーシャンリゾート」「フェニックスカントリークラブ」「松泉宮」  
 "Sheraton Grande Ocean Resort" "Phoenix Country Club" "Spa & Onsen at Shosenkyu"

**国際観光コンベンション・リゾート都市づくり(3)**  
 International Tourism and Convention and Resort City

◎ 大会・会議の開催実績 Figures of conventions and conferences

- 開催件数 ⇒ 183件  
 Number of events: 183
- 延べ参加人員 ⇒ 約203,000人  
 Total number of participants: about 203,000

「九州・沖縄サミット  
 外相会合(2000年7月)」  
 2000 Kyushu Okinawa Summit,  
 the Foreign Ministers' Meeting

**国際観光コンベンション・リゾート都市づくり(4)**  
International Tourism and Convention and Resort City

**宮崎市内のコンベンション施設**  
Convention Facilities in Miyazaki City



宮崎観光ホテル  
Miyazaki Kanko Hotel



宮崎市民プラザ  
Miyazaki Civic Plaza

**国際観光コンベンション・リゾート都市づくり(5)**  
International Tourism and Convention and Resort City

青島  
Aoshima Island



堀切峠  
Horikiri Pass



海水浴場  
Seaside Resort



**国際観光コンベンション・リゾート都市づくり(6)**  
International Tourism and Convention and Resort City

**「神話・観光ガイドボランティア」の育成**  
Training of "Folk-story and travel guide volunteers"



ボランティア活動の様子  
Activities by volunteers



ボランティア養成研修  
Volunteer training

**国際観光コンベンション・リゾート都市づくり(7)**  
International Tourism and Convention and Resort City

**1. コンベンション開催支援補助金** Convention subsidy support system

補助対象経費（会場使用料、設備リース料、講師等の謝金・旅費・宿泊費などの1/2以内で補助金を交付）  
Miyazaki Convention and Visitors Bureau will subsidize 50% of the cost facility and equipment rental, guest lecturer honorariums, travel and accommodation costs and many other costs up to 3.00 million yen, depending on participant number.

**2. 主催者の現地視察招聘事業** Site Inspections Made Easier!

コンベンション主催者に対して、事前会場視察経費等の一部を負担  
Miyazaki Convention and Visitors Bureau goes the extra mile to make site inspections easier by reimbursing part of the costs incurred during your inspection tour.

**国際観光コンベンション・リゾート都市づくり(8)**  
International Tourism and Convention and Resort City

**コンベンション主催者からの相談窓口**  
Informations for organizers of conventions



**みやざき観光コンベンション協会**  
Miyazaki Convention and Visitors Bureau

**主な支援内容** Provided Information

- コンベンション開催に関する相談・アドバイス  
consultation and counseling related to organizing conventions
- 各種資料の提供(観光パンフレット、飲食店ガイドなど)  
provision of materials (Tourist Information Brochures, Restaurant Guides etc.)
- コンベンション関連施設及び業者の紹介 など  
introduction of locations and businesses related to event managing

**スポーツランドみやざきづくり(1)** Sports land Miyazaki

**WBC日本代表チームキャンプ(野球)**

World Baseball Classic Japanese Team Camp in February in 2009 (Baseball)

- 1週間で約24万人の観客  
About 240,000 people visited in a week
- 市内の宿泊施設は連日満室  
Accommodations in the city were full every day



**スポーツランドみやざきづくり(2)** Sports land Miyazaki

**W杯キャンプ(ドイツ・スウェーデン)**

Training Camp of Swedish and German Soccer Teams during the 2002 World Cup



**スポーツランドみやざきづくり(3)** Sports land Miyazaki

**日本代表チームキャンプ(野球・女子ソフトボール)**

The Japanese Sports Camp (Baseball and Women's Softball)



**プロゴルフトーナメント(みやざきゴルフマンス)**

Professional Golf Tournament (Miyazaki Golf Month)



**スポーツランドみやざきづくり(4) Sports land Miyazaki**

1年を通じてマリンスポーツが可能な恵まれた環境  
Water sports over the whole year in Miyazaki's mild climate



ボディボード  
Bodyboard



サーフィン  
Surfing

**国際観光コンベンションリゾート都市づくり  
International Tourism and Convention and Resort City  
スポーツランドみやざきづくり Sports land Miyazaki**

これからの取り組み Present Policies

- 個性的な観光リゾートづくりの推進  
promotion of individualization of tourist resorts
- 観光ホスピタリティ(おもてなしの心)の充実  
further nourishment of hospitality ("welcoming heart")
- スポーツランドみやざきの推進 など  
promotion of Sports Land Miyazaki etc.

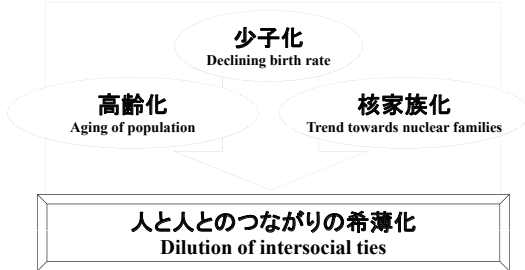


「市民が誇りを持つことができる  
観光都市宮崎の実現」を目指す  
Goal: Miyazaki as a touristic city based on pride of  
the local community by the citizens.

**きずな社会づくり(1)**

Revitalization of social ties on community level

宮崎市における課題 Issues in Miyazaki City



**きずな社会づくり(2)**

Revitalization of social ties on community level

市内に21の地域自治組織を設置  
Establishment of 21 autonomous neighborhood associations

- ① 地域住民の声を市政に反映させる仕組みの構築  
1. Installation of a platform to implement citizens opinions into communal policies
- ② 地域の課題を地域で解決する枠組みの整備  
2. Creating possibilities to solve local issues within the community

地域における  
支え合い意識の醸成と  
支え合い活動の活性化  
Raising the Community Consciousness  
and Expanding Citizens' Activities



**きずな社会づくり(3)**

Revitalization of social ties on community level

安心して生活できる住みよい都市の実現のために  
For the creation of a safe city with good living conditions

- 住民同士のつながりをより深いものにする  
deepening ties between citizens
- 住民が自分の地域のよさを知る  
directing citizen's attention towards peculiarities of  
the local community
- 人と人との触れ合いやつながりがある  
fostering interaction and ties between people

「きずな社会」づくりが必要  
Creating a City of Social Interaction

**きずな社会づくり(4)**

Revitalization of social ties on community level

地域組織「ふれあい協議会」  
Local organization "Fureai Kyogikai"(Interaction Council)

- 小学校(48校)の校区ごとに設置  
establishment in each of the 48 elementary school  
districts of Miyazaki City
- 文化や歴史など地域の魅力の再発見  
rediscovery of peculiarities in local culture, history etc.
- 地域特性を生かした地域づくりの実践  
implementing local characteristics into community building

市民が「まちづくりに参画する機会」を増やす  
Increasing opportunities for citizens to participate in city development



ご清聴ありがとうございました  
Thank you for your attention

## 4. 事務局挨拶

### 福岡アジア都市研究所理事長 樗木 武

ただいまご紹介戴きました樗木でございます。事務局を代表し一言挨拶申し上げます。

まずは、このように素晴らしいサミットを開催していただいたウラジオストク市長イーゴリ・プシカリョーフ様に心から感謝申し上げますとともに、準備にご尽力いただいた関係者の皆様に深く御礼申し上げます。

アジア太平洋都市サミット事務局は、調査・研究力を活用し、会員都市における都市問題の解決につながるよう世界の都市のベストプラクティスの情報収集・発信に努めて参っております。そして、それらを皆様、および多くの市民の方々と共有することによって、これからの地域の持続的な発展を促進していくことに尽力いたしております。

そのことについて、前回の大連市での2008年会議以降にしばり報告すれば、主なものは次の4点です。

まず第1は、APCS通信の発行です。2009年6月に創刊し、これまで9号発行しました。事務局研究員が収集した世界各都市のベストプラクティスや都市にかかわるデータなどを、日英2ヶ国語で紹介し、都市政策に関心のある800名の方に毎回配信しています。アジア太平洋都市サミットのことを理解いただく1つの重要なツールにもなっています。

2つ目は、2009年9月に福岡市で開催した実務者会議における官民協働のプログラムの実験的な実施です。世界の都市政策の潮流をみると、官民協働による地域一体となった地域づくりの重要性がましてきています。今後、民間の方々を巻き込んだ都市間交流を推進するためのモデル事業として位置づけ、その効果、課題について検証したところです。

3番目は、国際会議運営手法のレベルアップです。地域間競争の時代においては、このような都市のリーダーが集まる国際会議、また実務者が共通の課題を持って集まる会議での情報交換や議論の重要性がますます増してきています。年に1度の会議を、実りあるものにするために、事務局は、世界のさまざまな国際会議などに参加するなどして、よりよい会議の開催方法について研究してきました。

最後の4つ目は、会員都市を訪問しての「今後のアジア太平洋都市サミット」のあり方についてのヒアリング調査を行ったことです。現地を理解することは重要で、2010年にもできるだけ多くの皆様の都市を訪問し、直接の意見交換をしていきたいところです。

このような活動の成果をもとに、本年のウラジオストク会議となり、さらに、2011年に実務者会議を鹿児島市で、そして、2012年に浦項市で市長会議を開催する予定となっています。

いずれの会議もより積極的に支援してまいりたいと考えています。

冒頭に申しましたように、福岡アジア都市研究所は、情報の受発信を通じ、調査研究成果の活用を推進しています。ぜひ、会員の皆様も福岡アジア都市研究所と調査研究成果を、積極的に活用していただきたいと思っています。では、鹿児島市、そして浦項市でお会いできるのを楽しみにしております。簡単ですが、これをもって、事務局挨拶といたします。ご清聴ありがとうございました。

-2009 - 2010 - 2011 - 2012-

## Asian-Pacific City Summit

Action & Plan

2010.9.30

アジア太平洋都市サミット事務局  
 Asian-Pacific City Summit secretariat  
 (財) 福岡アジア都市研究所  
 Fukuoka Asian Urban Research Center  
 Director General CHISHAKI Takeshi  
 理事長 橋本 武

2009 -2010 Actions



2011-2012 Plans

2011

The 9<sup>th</sup>  
 Working-level  
 Conference for  
 Asian-Pacific City  
 Summit in  
**KAGOSHIMA**



2012

The 10<sup>th</sup>  
 Asian-Pacific  
 City Summit in  
**POHANG**



谢谢你!  
 고맙습니다!  
 спасибо!  
 cảm ơn anh!  
 Thank you!  
 ご清聴ありがとうございました。